





# すたぺンドリル 旧暦の月名と意味・由来

## 旧暦と和風月名

※主な説を紹介しています。

明治五年までの日本は旧暦（一年が三四五日）が使われており、月の名前も和風月名で呼ばれていました。現在の暦とは一〜二カ月ほど季節感がずれています。

<p>みなづき(みなつき) <b>水無月 6月</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>田に水を引く月「水の月」からきている。</li> <li>水無月の「無」は「く」の意味する。無いということではない。</li> </ul>	<p>さつき <b>皐月 5月</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「早月」ともいう。早苗(イネの苗)を植える月という意味。「早苗月」が短く変化した。</li> </ul> 	<p>うづき <b>卯月 4月</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卯の花(ウツギ)が咲く月という意味。「卯の花」が短くなった。</li> <li>「植月」といい、イネの種を植える月という説もある。</li> </ul> 	<p>やよい <b>弥生 3月</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一年で最もたのしい季節で、木草弥生い茂る(草木が生い茂る)月。「木草弥や生ひ月」が短くなり、「やよひ」に変化した。</li> </ul> 	<p>きさらぎ <b>如月 2月</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「衣更着」とも書く。まだ寒さが残っていて、衣(服)を重ね着する(更に着る)月。「草木張月(草木の芽が張り出す月)」が変化。</li> </ul> 	<p>むつき <b>睦月 1月</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正月に親類一同が集まって仲睦まじくする(親しくする)月、という意味。「元月月(一年の初めの月)」が変化した。</li> </ul>
--	---	--	---	--	--

<p>しわす <b>師走 12月</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>師匠(僧侶)がお経をあげるために忙しく走り回る月という意味。</li> <li>年が終わる「年果つ」、四季が終わる「四極」が語源とも言われる。</li> </ul>	<p>しもつき <b>霜月 11月</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>霜が降る月のことで、「霜降り月(霜降月)」から変化したと言われている。</li> </ul> 	<p>かなづき <b>神無月 10月</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国の神々が出雲大社に集まり、各地の神々が不在になる「神無し月」という意味。</li> <li>神をまつる「神の月」。神無月の「無」は「く」であるという説も。</li> </ul> 	<p>ながつき(ながつき) <b>長月 9月</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夜が長くなる月。「夜長月」が短く変化した。</li> <li>稲刈りをする月「稲刈月」が変化したとも言われている。</li> </ul> 	<p>はづき(はつき) <b>葉月 8月</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>木々の葉が紅葉して落ちる月。「葉落ち月」が短くなった。</li> <li>稲穂が張る(実る)「穂張り月」、雁が初めて来る「初来月」が元々になっているという説もある。</li> </ul> 	<p>ふみづき(ふつき) <b>文月 7月</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イネの穂が実る月「穂含月」が短くなったと言われている。</li> <li>七夕の行事で短冊に詩歌を書いたことから「文披月」と呼ばれ、変化して「文月」になった。</li> </ul> 
--	---	--	--	---	---